経営比較分析表

岩手県　岩手町

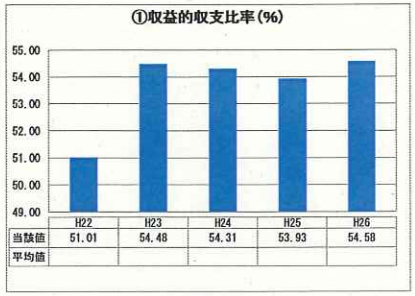
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m³当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	35.89	94.41	3,150

人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
14,602	360.46	40.51
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km²)	処理区域内人口密度(人/km²)
5,197	1.98	2,624.75

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

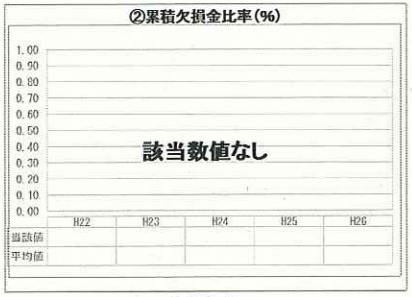
①収益的収支比率(%)



	H22	H23	H24	H25	H26
当該値	51.01	54.48	54.31	53.93	54.58
平均値					

「単年度の収支」

②累積欠損金比率(%)



	H22	H23	H24	H25	H26
当該値					
平均値					

「累積欠損」

③流動比率(%)

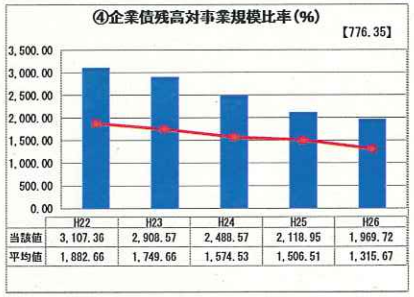


	H22	H23	H24	H25	H26
当該値					
平均値					

「支払能力」

④企業債残高対事業規模比率(%)

【776.35】



	H22	H23	H24	H25	H26
当該値	3,107.36	2,908.57	2,488.57	2,118.95	1,969.72
平均値	1,882.66	1,749.66	1,574.53	1,506.51	1,315.67

「債務残高」

⑤経費回収率(%)

【96.57】



	H22	H23	H24	H25	H26
当該値	38.11	33.09	35.47	33.89	30.56
平均値	54.67	54.46	57.36	57.33	60.78

「料金水準の適切性」

⑥汚水処理原価(円)

【142.28】



	H22	H23	H24	H25	H26
当該値	413.63	478.05	446.19	467.31	517.38
平均値	290.26	293.09	279.91	284.53	276.26

「費用の効率性」

⑦施設利用率(%)

【60.35】



	H22	H23	H24	H25	H26
当該値	21.20	21.57	23.77	21.09	21.94
平均値	39.77	38.95	40.07	39.92	41.63

「施設の効率性」

⑧水洗化率(%)

【94.57】

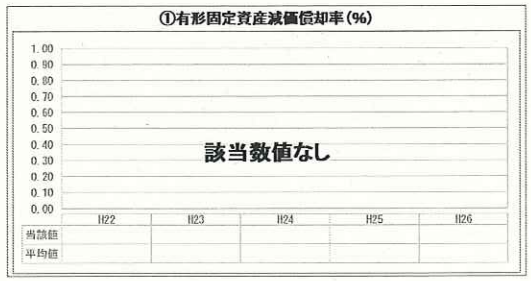


	H22	H23	H24	H25	H26
当該値	58.12	60.80	61.26	62.54	63.69
平均値	65.66	65.60	66.00	65.86	66.33

「使用料対象の捕捉」

2. 老朽化の状況

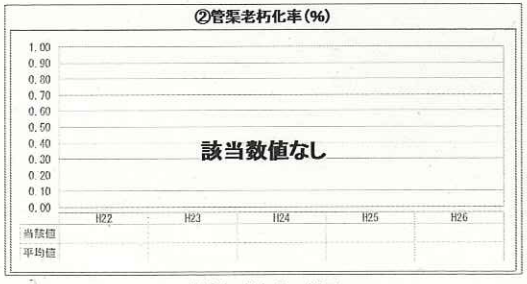
①有形固定資産減価償却率(%)



	H22	H23	H24	H25	H26
当該値					
平均値					

「施設全体の減価償却の状況」

②管渠老朽化率(%)

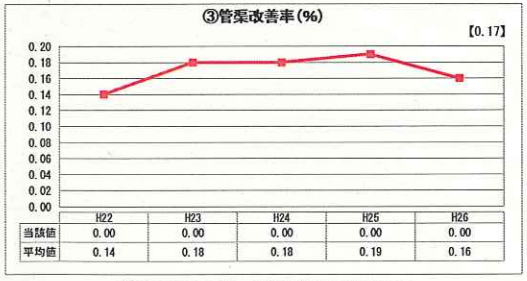


	H22	H23	H24	H25	H26
当該値					
平均値					

「管渠の経年化の状況」

③管渠改善率(%)

【0.17】



	H22	H23	H24	H25	H26
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.14	0.18	0.18	0.19	0.16

「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

※　法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
※　平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当町の下水道事業はまだ整備途上で経営的には未だぜい弱であり、一般会計からの繰入金に頼っている状況のため、各表はこれらを反映した内容となっています。
・【①収益的収支比率】は、料金収入等で費用がどれだけ賄われているかを示しており、数値が100%に満たないのは将来の更新費用が内部に蓄積されていないことを示しています。
・【④企業債残高対事業規模比率】は、料金収入に対する起債残高の割合であり、収入に対する投資の比率が大きいことを示していますが、徐々に改善されています。
・【⑤経費回収率について】は、費用のうち使用料で賄われる割合を示しており、値が低いのは一般会計繰入金で補われていることを示しています。
・【⑥汚水処理原価について】は、汚水１㎥あたりの処理コストを表しており、当町は類似団体に比べてコスト高となっています。
・【⑦施設利用率について】は、施設をどれだけ稼働しているかを表しており、当町の処理場の稼働率はまだ低いといえます。
・【⑧水洗化率について】は、処理区域内の人がどれだけ水洗化したかを表しており、現在は低い値ですが年々向上しています。
各表の成績が低いのは事業が未だ途中で利用者が十分でないためであり、今後徐々に改善されると見込まれます。

2. 老朽化の状況について

当町の公共下水道事業の施工開始は平成9年度であり、耐用年数を超えた管きょはまだありません。
また、浄化センター等施設は適切なメンテナンス及び軽微な修繕・交換などにより耐用期間の延長に努めているため、現在のところ老朽化については特段の問題はありません。
したがって老朽管の更新を表す③管きょ改善率もゼロとなっています。
今後は、将来の老朽化に備えて適切な管理を持続し、施設の延命化に努めていく必要があります。

全体総括

公共下水道事業は大規模施設事業であり、投資から効果の発現まである程度の期間を要します。
当町の公共下水道事業は平成9年度に建設開始、平成14年度から供用開始されました。事業開始から日が浅く整備途中でもあり、まだ十分な利用者及び利用料収入が確保できないため、経営の健全性・効率性を表す指標は低い成績となっています。
これに対して、同様の理由により施設は比較的新しいため、この指標については該当しない（老朽化はない）こととなっています。
今後、事業が進むことで水洗化率が上がるなど経営状況は改善すると見込まれますが、将来の施設更新等を考慮した場合は十分とはいえず、また一般会計繰入金の削減のためにも、経営の効率化及び適切な更新のための計画の策定・実行が必要となります。